隔週金曜掲載

和歌山を創る新聞 わかつく

Vol.319
2023.9.8

認定特定非営利活動法人
わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223　FAX 073-423-8355
E-mail info@wnc.jp　URL http://www.wnc.jp/
編集　志場 久起

和歌山を創る新聞「わかつく」バックナンバー
https://wnc.jp/works/wakatsuku
和歌山を創る新聞「わかつく」バックナンバー PDF 版を掲載中。スマートフォンからもご覧いただけます。

人生は二幕目がおもしろい！…わかやまコンパクト 100 歳大学

人生 100 年と言われるこの時代、「人生は二幕目がおもしろい！」をキーワードに和歌山で高齢者のための「老いの義務教育」が始まっています。昨年度の好評を受け、第 2 弾がこの 9 月にスタートします。発起人である NPO 法人和歌山保健科学センターの市野弘さんにお話をうかがいました。

講座の様子

老いへの覚悟とノウハウの獲得

日本は高齢者が3～4割を占める「超高齢社会」に突入しつつあり、その時代を見据えた個人の意識改革と地方創生が重要課題となっています。令和4年度の調査では、和歌山の高齢人口率は33・2％と全国11位、近畿圏で1位と看過できない状況です。

この状況を打破するための新たな高齢者福祉施策のひとつとして「100歳大学」があります。介護予防や地域貢献、各種制度から学ぶ経済的自立など、「人生100歳時代に備えて！」をテーマにしたカリキュラムのもと、さまざまな講義を受け、グループワークを行うことで、健康・生きがいづくりの意識を高めながら、社会や地元地域のまちづくりに積極的に参画する高齢者を養成します。

ディスカッションの様子

福祉施策の転換期

100歳大学は、ただ単に高齢者それぞれの嗜好やニーズに応える学びの仕組みであるだけではありません。福祉サービスの受け手になるだけでなく、サービスの担い手になることができる高齢者を育成することを目標としています。

これにより、住まい・生活支援・介護・医療・予防を一体とした地域の力を活かして高齢者を支える「地域包括ケアシステムの構築」を高齢者自身と自治体の連携・協働のレベルを高めながら行うことが期待されています。これは今後の福祉サービスのコスト削減や人材不足に対処することにもなります。いわば「課題解消型」のシステムです。

これまでの高齢者福祉施策は年金・介護・医療などの社会保障としての仕組み、実際にある課題に対して制度で直接的に問題を解決する「課題解決型」としての仕組みでした。

しかし、それらは超高齢社会による生産人口の減少や担い手不足、費用負担の増加による限界が近付きつつあります。

そこで、それらに頼ることのない高齢者教育の手法を確立し、課題が発生してから対応して解決する後手の施策から、「課題解消型」の施策の整備と充実で、先手の施策へと転換を目指しています。

これには「介護」から「教育」への転換、「福祉は消費であるが、教育は投資である」という考えが根本にあります。それが「老いの義務教育」の思想であり、「老いの生き方教育」、「老いの基礎を学ぶ学校」としての構想なのです。

昨年度の卒業式にて

老いたからこそできること探してみませんか

100歳大学は他県でも開設に向けた動きが進んでおり、発祥である滋賀県では2つの市で導入され、大学を介して高齢者が子育て支援の仕事についた例も。和歌山では昨年度の好評を踏まえ、「若い人にも老いの実情を知ってほしい」として、今年度は60歳以上という年齢制限を撤廃したところ、なんと最年少では26歳の方からの申し込みもあり、結果として定員を超える応募がありました。

市野さんは「人生の二幕目を見つけるために、高齢者が地域互助・共助の担い手となって活躍してほしい。それを補助するのがこの100歳大学の取り組みです」と意気込みを語ってくれました。今、時代に合わせた形で始まる地方創生に注目です。

（阪口晃彦）

特定非営利活動法人 和歌山保健科学センター
和歌山市上野 298
URL　https://npowhs.jimdofree.com/
※ ウェブサイトに今年度の開催概要が掲載されています。

わかやま SDGs パートナーシップ基金特別版

わかやま SDGs パートナーシップ基金 [特別版] 助成先募集

みんなの力で和歌山の復興を！

11 住み続けられるまちづくりを
17 パートナーシップで目標を達成しよう

2023 年 6 月豪雨で被災されたみなさまにお見舞い申し上げます。
わかやま NPO センターが 2021 年度から運営を開始した「わかやま SDGs パートナーシップ基金」では、県民のみなさまからのご寄付を原資に、国連 SDGs（持続可能な開発のための目標）の達成に向けて取り組みをすすめる和歌山県内の NPO・ボランティア団体を応援しています。
今般、特別編として、6 月豪雨被災地におおける「支えあい」「助け合い」活動を資金的に応援させていただきます。

対象団体

・和歌山県内に拠点を置く NPO・ボランティア団体（法人格の有無は問いません）
※ 一般社団法人の場合は非営利徹底型に限ります。
・[**特別版限定**]　団体の活動実績は問いません。

助成金額・団体

1 団体 3 万円を上限 5 団体に助成します。他の助成金事業等との重複も構いません（もう一方の事業が認めている場合に限ります）。内容によってはヒアリングをさせていただくことがあります。

助成金の使途

被災地域の住民のみなさんの支えあい・助け合い活動に直接必要な費用であれば内訳は問いません。

必要書類

① 申請用紙　ウェブサイト https://wnc.jp/works/sdgsfund から Word ファイルが入手できます
②添付書類
1）NPO 法人の場合…原則としてありませんが、定款と直近事業年度の事業報告書等が内閣府 NPO 法人ポータルサイトに掲載されていない場合は添付ください
2）任意団体の場合…会則もしくは規約と直近事業年度の事業報告書・決算書（設立初年度の場合は事業計画書と予算書を提出ください）
3）一般社団法人の場合…定款と直近事業年度の事業報告書・決算書（設立初年度の場合は事業計画書と予算書を提出ください）

申請方法

わかやま NPO センターまで FAX もしくは電子メールのいずれかでお送りください（郵送は受け付けません）。
電子メールでのご応募の場合は、受領確認メールをお送りします。9 月 30 日以降になっても受領確認メールがない場合は、迷惑メール等に誤判定されている可能性がありますので、電話でお問い合わせください。

申請締め切り

2023 年 9 月 29 日（金）17 時（必着）

採択時の事務について

採択団体に対しては 10 月下旬を目途に助成金を振り込みます。採択団体には、2024 年 3 月末までを目途に写真等を交えた事業報告・決算報告を提出いただきます。決算報告には領収書のコピーの添付が必要です。

【運営】
認定特定非営利活動法人わかやま NPO センター
〒640-8331　和歌山市美園町 5-6-12　URL https://wnc.jp/
TEL 073-424-2223　FAX 073-423-8355　E-mail info@wnc.jp
【事務所不在時、電話は和歌山県 NPO サポートセンターに転送されます】

和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会だより

まちなか百姓養成塾

日　程　9 月 20 日（水）18:30 ～ 20:00
場　所　和歌山市地域フロンティアセンター会議室（フォルテワジマ 6 階）
定　員　20 名（前日までに申し込みください。定員に余裕がある場合当日参加可能）
内　容　有機農法による秋野菜の栽培
受講料　500 円（資料代）
主　催・申し込み先
わかやまイイネ！プロジェクト
まちなか百姓養成塾チーム
（090-1156-6799・
waiprojimu@gmail.com
担当：池田さん）
備　考　奇数月第 3 水曜日に開催

【このコーナーでは、和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会加盟団体の主催イベント等の内容を不定期にお知らせしています】